

平成 23 年度 校内放送指導者講座 報告

日時 平成 23 年 12 月 26 日・27 日

場所 NHK 放送研修センター

毎年、全国から放送部を指導する顧問教諭が集まり、開かれる指導者講座。全国大会入賞校の先生も多く、活気にあふれています。私はまたも、参加させていただきました。

① 顧問交流

例年、最初の時間に、各校の顧問の先生方が交流し情報や経験談を交換するために設けられています。今回もテーマ別に 10 人弱ごとに班に分かれ、話し合いが行われました。

私の班では、「どこまで顧問が口出しするか」がテーマ

- ・番組制作の台本は顧問が作る。生徒の案をそこに少しずつ入れていく。
- ・生徒はおちゃらけた作品を作りたいが、まず硬いものを作らせる。
- ・インタビューは、解答を予想して台本を作る。
- ・ドラマは、仮面ライダーなどの戦隊ものが参考になる。
- ・効果音はクレヨンしんちゃんのアニメを参考にすると良い。

② アナウンス・朗読 初心者の指導法

NHK 放送研修センター・日本語センターエグゼクティブアナウンサー山下俊文氏より講演。まったくアナウンス朗読の経験の無い高校生を会場に呼び、彼らを対象に指導する様子を見学しました。

- ・しゃべりのクセはだれもが持っている。しゃべりが良くなると、読みも良くなる。
- ・原稿を読む手順は、まず黙読してから。
- ・アクセントの種類。平板型・頭高型・中高型・尾高型についての指導。
- ・母音の無声化 北・草・鹿・月・期間・国産・地球・歴史・スケート
- ・連母音の長音化 政治→せーじ 経済→けーざい 仕入れ→×しーれ ○しいれ 等
- ・そのほか、音程・強調・イントネーションについて

③ アナウンス・朗読 審査講習

引き続き、山下俊文氏により、審査講習が行われました。アナウンス・朗読、NHK 放送コンテスト全国大会出場作品から、それぞれ 4 作品ずつが会場内に流され、全員で採点。山下氏との得点比較、当日の会場での得点との比較。

うねり、「」の表現、緊張感の表現、問の活かし方、内容の伝達、作り声の不自然さ、自然なしゃべり、等についての指摘。

④ 実践発表 ～少人数部員からスタートした初心者顧問の取り組み～

国立米子工業高等専門学校放送部顧問 田中晋氏による実践発表がありました。放送部がある高等専門学校は少ない中で、この 4 年間に部員が急増。受験が無く、実践的教育がされる特徴の中で、理系学生ならではの部活作りが紹介されました。

- ・情報リテラシーが非常に高い。番組制作の技術的な部分に関心が高い。
- ・番組の構成力は不足、アナウンス志望者は少ない。
- ・独りよがりの作品ではなく、審査員を意識した作品づくりを。
- ・ブレインストーミング→シナリオ制作→絵コンテ制作→撮影スケジュール作成→機材準備→記録とともに撮影の手順

⑤ 番組制作における法的注意点

しばしば語られる著作権について、NHK 総合リスク管理室法務部弁護士梅田康宏氏による講義が行われました。法律上は、著作権は考えられているほど広範囲に及んでいるものではなく、過剰な反応と思われる点も多いという印象でした。ただし、法律上の理解と、現場の判断は異なるとのことのお話も。

実際に NHK の作品について発生した著作権のトラブルについても紹介がありました。

- ・著作権は「表現」に対してのみ発生する。アイデアそのもの・思想感情そのもの・事実・ありふれた表現については、保護されない。
- ・「利用」にあたるかどうか。
- ・先行している作品に多くの例がある場合は、著作権は問題ない場合が多い。

⑥ 番組技術と模擬審査

③と同様、NHK コンテストのテレビドキュメント 3 作品を鑑賞し、採点。講師や当日との得点比較と、講義が行われました。

- ・インタビューには、ふさわしい場所がある。ここが雑な作品多い
- ・人物紹介では特徴的な場面だけでなく、普段の様子もカメラに収めておく必要がある。
- ・課題解決型の番組が増えてきた。どっかで見たような・・・
- ・ラジオでも出来る作品は、ラジオで製作した方が良い。

⑦ その他

・長崎県の先生方より、13 年長崎しおかぜ総文祭の案内。また、諫早市で行われる指導者研修会のお知らせ（2 月に終了）あり。